

カラー  
INTERVIEW  
**三浦雄一郎さん**  
(プロスキーヤー)  
27

生涯学習の総合情報誌

# マナビィ



2007年

1月号

No.67

文部科学省編集

## 特集 これからの博物館像

- 座談会 **博物館の底力～若手学芸員、大いに語る～**  
神奈川県立近代美術館学芸員 稲庭彩和子  
財団法人東京歴史文化財団事務局総務課企画広報係次席 佐々木秀彦  
横浜市立よこはま動物園教育普及担当 長倉かすみ  
文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域学習活動推進室長 行松泰弘…………… 4
- 施策説明 **博物館の行政施策について**  
<文部科学省生涯学習政策局社会教育課>…………… 9
- 提言 **地域とともに歩む新時代博物館**  
<東京都江戸東京博物館館長 竹内 誠>…………… 10
- 事例紹介① **学び、つくり、伝える**  
<佐賀県立名護屋城博物館>…………… 12
- 事例紹介② **博物館における資料保存について**  
<千葉県立中央博物館 分館海の博物館>…………… 13
- 事例紹介③ **「地域だれでも・どこでも博物館」の目指すもの**  
<滋賀県立琵琶湖博物館>…………… 14
- レポート **第54回全国博物館大会レポート**  
<文部科学省生涯学習政策局社会教育課>…………… 15

連載

まなびの新風

—あのみち・このまち—

大学等との連携によるまちづくり

こんにちは厚生労働省

事例クローズアップ

挑戦! 企業が取り組む生涯学習

やっってるよ! ボランティア

～自分も輝く 地域も輝く～

子育てするならわがまちで

- まなびのみち **和歌山県有田川町**…………… 16
- 地域活性化のための人づくりと大学  
<福島大学>…………… 20
- 就労でもない就学でもない「第3の選択肢」実践型人材養成システムについて …… 24
- さあ、あなたも地域デビュー**  
<東京都杉並区>…………… 32
- 教育コミュニティづくりの推進**  
<大阪府>…………… 36
- NPO広報力向上プロジェクト**  
<株式会社電通>…………… 40
- 「ボランティア活動推進フォーラム香川大会」開催  
<香川県>…………… 42
- 地域に広がれ子どもの居場所  
<NPO法人みやぎ子ども文化センター>…………… 45
- 突撃レポート**…………… 31
- マナビィと学ぶ2007年問題～団塊世代の可能性～**…………… 48
- Manabee News**…………… 50
- 編集後記**…………… 54

これからの  
**博物館像**

座談会  
**博物館の底力**  
～若手学芸員、大いに語る～

出席者(発言順・敬称略)

稲庭彩和子(神奈川県立近代美術館学芸員)

佐々木秀彦(財団法人東京歴史文化財団事務局総務課企画広報係次席)

長倉かすみ(横浜市立よこはま動物園教育普及担当)

司会

行松泰弘(文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域学習活動推進室長)

学芸員の魅力

行松 本日は、「博物館の底力」若手学芸員、大いに語る」というテーマで、最前線で仕事をされている学芸員の皆さんに、どんなやりがいや苦労があるのか、また博物館の在り方と未来について、どのようなことを考えながらお仕事に励まれているのか、といったお話を伺えればと思います。まずは、自己紹介として、今どのような仕事をしているのか、なぜ

学芸員になったかをお聞かせください。稲庭 私は神奈川県立近代美術館で、主に教育普及といわれる活動を担当しています。どういう入り口をつくったら色々な人に利用してもらえるのか、より深く作品と出会ってもらえるのか、という観点から活動を考え、計画・実施していくことが面白くもあり、また壁にぶつかることもあります。今の職についたのは、大学と大学院の時に博物館で研究補助の仕事をしていたのですが、修学旅行の学

生が博物館に来ても駆け足で素通りしてしまうのを見て、なんでもつたいないんだらう、どうやったら作品とうまく出会ってもらえるのだから……と考える中で、美術館で物と人をつなぐ仕事に関心を持ったのがきっかけです。

佐々木 私は、もともと江戸東京博物館に学芸員として採用されました。分館の江戸東京たても園勤務を経て、今は都の博物館の運営を行っている財団法人東京歴史文化財団事務局で、主に都立の八つの文化施設について利用者調査を通して評価システムづくりの仕事をしています。学芸員も管理運営部門を経験して、なんでも分かるようにしようということ、現在の部署に配属されました。

学芸員になったきっかけですが、少年時代は上野の近くに住んでいたので、博物館によく通っていました。「ミュージアム少年」だったと思います。大学生の時に学園祭で身近なもので各国を紹介するという展示をやったのですが、その時にとても充実した経験ができて、これを仕事にするとしたら何になるのかなと考えたときに、博物館だ！と思って、学芸員を目指しました。

長倉 私は、はじめの五年間は飼育担当として働いて、この四月から教育普及の担当になりました。学芸員資格は大学卒業後に通信教育で取得しました。今担当しているのは、動物園友の会の事業運営とボランティア組織の運営、学校や一般の来園者向けの教育普及活動全般です。

もともと環境問題に興味があり、ヨーロッパでは動物園が環境教育をやっていることを知りました。年間で世界の動物園に来ている人の数を考えたら、すごく多くの人に環境を守るということを伝えていけると思ひ、学芸員を目指しました。行松 皆さんがお仕事をされていて、学芸員冥利に尽きるなあと感じる瞬間ってどういう時なのかをお話しいただけますか。

稲庭 美術館学芸員という仕事は、作品が持っているエネルギーや輝きといったものを、いま生きている人たちに伝え未来につなげる仕事ではないかと思うんです。作品が持っているエネルギーというのは、作品自体が持っている力や、それを大切に保存して伝えてきた人の思いや、積み重ねられた時間の重みですが、美術館で研究されることでまた輝きが増

すこともあります。それがまた人と出会ったときに、その出会いによって生の喜びみたいなものが生まれる。そこをつないでいくのが学芸員の仕事ではないかと思っています。だから、仕事で一番嬉しいのは、誰かがそうしたエネルギーに出会う機会にかかわれたと感じるときですね。そのような目に見えないものが世の中に存在しているからこそ、安定した社会が育まれていくんだと思うんです。

長倉 私が今教育普及を担当していることもありますが、今まで動物園がやってこなかったような試みをチャレンジできる立場にあるというところに必然性を感じます。これまで障害のある人にやさしい動物園づくりやアーティストと共同して見る人の感性を刺激する展示に取り組んだりしてきましたが、まだまだ、新たな取組をしていかなければならないと思っんです。

動物園は、動物という存在と自分を対峙させて、自分がどうありたいのかを考えられるような場所、そのためには、例えば動物たちが季節にあわせて体を変化させたりといったことや、死んだり生まれたりという生物として当然の営みを伝





長倉かすみ (ながくら・かずみ)  
横浜市立よこはま動物園教育普及担当。神奈川県出身。専門分野は動物園教育。大学卒業後、民間企業や大学勤務を経て渡欧。その後、神奈川県より助成を得て渡欧。10か月間に渡り、欧州および80園の動物園水族館の教育活動を調査し、帰国。平成13年4月1日より横浜市立よこはま動物園飼育担当として5年間従事した後、平成18年より現職。

くて、三年後、一〇年後にその博物館がどういった姿でありたいのかといったストーリー、それは独りよがりなものではなくて、みんなと分かち合えるようなストーリーを持つて、今はこの段階にあるんだよっていうことをはっきりさせることが大事ですね。中長期な計画を立てて、年度目標を設定するという事です。現場を離れて、管理する立場になると、このことの重要性がよくわかります。長倉 私は、色々なプロジェクトを一緒にできるコアな人材をどう見つけていくかっていうことが重要で、人材と出会えるようなアンテナを常に張って、動物園以外で動物園を支えてくれる人を増やしていきたい。

私たちは当然、動物園の可能性を信じて働いていますが、そもそも動物園があった方がいいのか、なくてもいいのか、それを議論できるまで我々動物園も地域の人たちも成長して、「やっぱり動物園っていいよね」という結論になったところで、多くの人が価値を共有した上で新たな活動を展開できるような未来が待っているんじゃないかと思えます。もともと多くの地域の人たちに動物園の可能性を感じてもらった上で、市民に価値ある動物園にしたい。

て、ミュージアムの存在の必要性をみんなに意識してもらいたいですね。佐々木 社会の中で、自分たちの博物館にはどんな存在意義があるのだろうか。常にかえることが大事ですね。その上で、ミュージアムを自分の居場所として大切にしてくれる人々を増やして、その人々を中心にいろいろな人に支えられる博物館が生き残るのではないかと思います。

### 施策説明

## 博物館の行政施策について

### 文部科学省生涯学習政策局社会教育課

文部科学省では、博物館が地域における生涯学習推進や文化芸術の拠点として一層重要な役割を果たし、その発展を支援するための事業等を進めています。その一部について、次のとおり紹介いたします。

が公布され、博物館においても移動等の円滑化が特に必要な施設と位置づけられていることもあり、全国の博物館が「誰にもやさしい博物館」となるための調査研究を進めています。

### 誰にもやさしい博物館づくり事業

平成一六年度から文部科学省では、豊富な学習資源とそれらについての専門家を有し、地域における生涯学習の拠点となっている博物館が、政府の観光立国施策と相まって増え続ける外国人旅行者をはじめ、年齢や障害の有無にかかわらず、全てのの人々にとって利用しやすい施設となるような調査研究を行い、具体的な改善点等を明らかにする他、「誰にもやさしい」理想的博物館となるために、博物館活動全般について、必要な運営・管理体制について提言を行うものです。

また、平成一八年六月二二日には、高齢者、障害者等の円滑な移動及び建築物等の施設の円滑な利用の確保に関する施策を総合的に推進するため、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」

### 誰にもやさしい博物館のチェックリスト(抜粋)

- 5-1 職員やボランティアの研修
- 車いすの扱い方を研修している。
- 視覚障害者の誘導方法を研修している。
- 聴覚障害者とのコミュニケーションのとり方を研修している。
- 非常通報装置の位置や使い方を研修している。
- 高齢者や障害者の理解に関する全般的な研修をしている。
- 外部の研修会に参加させている。
- ※障害者の支援に関わる研修を実施している館は二・三％(平成一六年度調査)

### 「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」の設置

博物館の現状や課題を把握・分析し、生涯学習社会における博物館の在り方について調査・検討を行うため、博物館関係者や有識者からなる「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」を平成一八年九月に設置し、文化庁文化財部美術学芸課を始め、省内関係課と連携の下、検討を行っています。

- 調査研究事項は、
- (1) 博物館法の博物館について
  - (2) 博物館の登録制度の在り方等、博物館評価について
  - (3) 学芸員制度の在り方について
- 等であり、平成一八年度末を目処に報告書を取りまとめる予定です。

### 「これからの博物館の在り方に関する検討協力者会議」委員(五十音順)

- 佐々木 秀彦 財団法人東京都歴史文化財団事務局 総務課企画広報係次席
- 鷹野 光行 お茶の水女子大学文教育学部教授
- 高安 礼士 千葉県総合教育センター科学技術教育部長
- 中川 志郎 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 館長
- 名取 耶 財団法人五島美術館学芸部長
- 水嶋 英治 常盤大学大学院コミュニティ振興学研究科教授

◎：主査、○：副主査



## 事例紹介①

# 学び、つくり、伝える

## — 博学協働授業「日韓交流史」 —

### 佐賀県立名護屋城博物館

「こんにちは。唐津青翔高校二年のMです。展示概要の御説明をいたします。よろしくお願ひします。……」。一月二日、A4の紙五枚にびっしりと書いた台本をおぼえ、展示説明（発表会）に臨んだMさんは、いざ、来館者や他の受講生、マスコミの方々の前に立ってみると頭が真っ白になり、一〇分の目標が五分で終わって、ちよつと悔しそうな顔……。

名護屋城博物館は、「日本列島と朝鮮半島との交流史」をテーマとした博物館事業、特別史跡「名護屋城跡並びに陣跡」保存整備事業、日韓交流支援事業などを行っていますが、平成一八年四月から佐賀県立唐津青翔高等学校の新科目「日韓交流史」の博学協働運営を始めました。この科目は、開校二年目を迎えた同校の学校設定科目で、地域文化・環境コース地域文化系二年生（今年度は一八人）の必修科目です。二単位の通年の授業で、今年度は毎週木曜日の五、六校時に連続

のコマで設定され（二コマ×二九回/回数に考査等は含まない）、もちろん来年度以降も継続するものです。

教科書は、検定教科書が無いので、本館の常設展示図録、学芸員という人的資源をフル活用し、年間二九回の授業の中で一三回を博物館、五回を学校への学芸員の出前講座、残り一回を学校で担当教諭が次の博物館での授業準備や補足内容を指導するようにしています。

授業展開は、年度の前半で「観覧者に展示説明をしよう」、後半で「博物館でパネル展示会をしよう」を目標として設定しています。いずれも、名護屋城跡・名護屋城博物館という歴史の現場に立つて本物で学び、考えながら何か（展示説明内容・パネル）をつくって、



緊張しながらも頑張った展示説明発表会

それを人に伝えるという一連の実践課題を成し遂げることで、冒頭の部分は、前半の総まとめの展示説明発表会の一コマ。Mさんは学芸員を志望しており、夏休みには大学生の博物館実習にまじって美術品取扱実習にも参加しました。時間にゆとりが出たため、生徒に再チャレンジを促したところ、「私、やります」とMさん。「学校外での授業」の教育的効果は科目内容を超え、生徒にとって大きな力になっているようです。

唐津・東松浦地域の学校現場と博物館現場で働く大人たちが、この地域の子どものために知恵を絞って準備した新科目「日韓交流史」。まだまだ手探りですが、子どもたちの様々な「力」を育むものになるように展開していきたいと考えています。

（学芸員 浦川和也）

■お問い合わせ  
 佐賀県立名護屋城博物館  
 〒847-0401  
 TEL 0955-82-4905  
 FAX 0955-82-5664  
 URL [http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko\\_bunka/kshisetsu/nagoya/nagoyaindex.htm](http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kanko_bunka/kshisetsu/nagoya/nagoyaindex.htm)  
 【館のメールアドレス】  
 E-mail [nagoyajouhukubutsukan@pref.saga.lg.jp](mailto:nagoyajouhukubutsukan@pref.saga.lg.jp)

## 事例紹介②

# 博物館における資料保存について

## 千葉県立中央博物館 分館海の博物館

千葉県立中央博物館分館海の博物館は勝浦市鵜原の海岸に建つ海洋生物を展示している博物館です。海に近いため資料保存には適した環境とは言えません。外の湿度が高いためカビ対策は最も重要なこととなります。当館の資料のカビ対策について述べたいと思います。

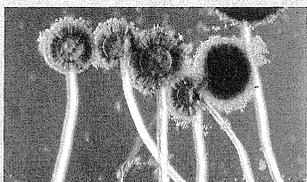
博物館のあらゆる資料はカビによる劣化にさらされています。収蔵庫に保管されている資料も同様で庫内湿度上昇など保存環境が悪化すればカビによる劣化が急速に進行します。しかし、収蔵庫の湿度調整を適切に行うことにより劣化を遅らせることも可能です。資料劣化に最も関係するカビは乾燥した環境を好む、「好乾性菌」と呼ばれる一群のカビです。好乾性菌は乾燥食品、高糖濃度食品、高塩濃度食品などに生えます。物理的乾燥、生理的乾燥の両方を好みますが、湿った環境では生育が抑制されます。資料に着生して、生育条件に適した湿度にな

ればゆつくりですが生育してきます。資料劣化にかかわる好乾性菌は自然界に普通に分布している種類も多く、搬入する資料、梱包材、ホコリとともに収蔵庫に持ち込まれます。これら好乾性菌も収蔵庫の湿度が五〇％程度ですと生育することとできません。そのため空調が良好に管理されているとカビによる被害は起こりません。しかし、空調機の事故、経費削減による運転時間短縮などで庫内湿度が上昇した場合に

は資料表面に好乾性菌が生え肉眼でも見られる状態になります。特に、好乾性のコウジカビやユーロチウムの被害がおこります。カビが生えると菌糸を資料中に伸ばし資料を分解し栄養として増殖します。そのため資料の劣化が急速に進みます。このような状態になつてからでは燻蒸による殺

菌以外に効果的な制御方法はありませんが、アルコールの噴霧などでは表面の菌糸や胞子を殺菌することはできません。カビに内部に伸びた菌糸は殺せません。カビに水分と栄養を与え生育を促進してしまわず、また、ガラス、金属など本来カビの栄養源がない場所にもヒトが直接資料に触れることにより付着したわずかな指の脂を栄養にして生え、有機酸を代謝して表面を劣化させることがあります。資料をカビの被害から守るには収蔵庫の湿度管理が最も重要ですが、どのように良好に収蔵庫を管理してもカビの量は増えてきます。当館でも一定期間ごとの燻蒸によつて収蔵庫内の好乾性菌を殺菌し、収蔵庫内の環境をリセットし、次世代へ資料を伝えて行くための努力をしています。

（分館長 堀江義一）



アスペルギルス・ニガー：資料によく生えるコウジキノの仲間、アスペルギルス・ニガーの顕微鏡写真

■お問い合わせ  
 千葉県立中央博物館 分館海の博物館  
 〒299-5242  
 千葉県勝浦市吉尾123  
 TEL 0470-76-1133  
 FAX 0470-76-1821  
 URL <http://www.chiba-muse.or.jp/UMIHAKU/index.htm>  
 E-mail [UMIHAKU@chiba-muse.or.jp](mailto:UMIHAKU@chiba-muse.or.jp)

事例紹介③

# 「地域だれでも・どこでも博物館」の目指すもの

## 滋賀県立琵琶湖博物館

博物館が社会から評価される時代が来たといわれます。でも博物館の学芸員や運営を担当するものにとつて、本当に大事にしたい利用者とかかわりの強さや、利用者の満足度などは評価しにくいために、外部からの一方的な評価は不足なことが多いものです。

しかしそういう外部からの目に対して、自分たちの博物館は何を目的としているのか、社会の中でどのような役割を果たそうとしているのか、ということを経験的に示すことは必要でもあり、同時に実際に運営をするうえでも大切なことであると考えています。

琵琶湖博物館は平成一八年一〇月で開館一〇周年になりますが、開館時に次の新しい博物館像を明確にするための、中長期計画検討チームを作つて議論を始めました。内部のチームでの議論から、外部の委員をお招きして三年間の中長期計画検討委員会を経て、改めて内部での

議論を行い、二〇〇四年一月にまとめた文書が中長期基本計画「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するために「です。

この文書はA4判、一五頁のもので、二〇一五年を目標にして、その時期に目指す琵琶湖博物館像を明示しています。

「第一章 計画の全体像」では、使命、理念、目標の確認と、目標である「地域だれでも・どこでも博物館」を実現するために、博物館機能の強化と環境の整備の二領域に分けて合計九項目の方針とその概要が決められ、第二章の個別計画では、それぞれ項目ごとに、いつまでにどのような目標を上げて実現していくのか、ということを示した計画になっています(HPで全文を見ることができます)。

基本的な内容は、これまでの琵琶湖博物館の使命や理念を基



はしかけグループ「うおの会」の活動の様子(魚の調査)

本的には引き継ぎ、その中にある琵琶湖博物館らしさにこだわって発展させていきたが、二〇一五年を目標年度として「地域だれでも・どこでも博物館」といえるような状態や博物館を作っていくこととするものです。これまでの琵琶湖博物館の活動は、地域で大切とされているが、やはり博物館の場を大切に、一緒に活動をしていくというものでした。これからの新しい博物館像は、博物館が地域に出て行き、地域での活動に対して情報や人のネットワークなどを使って協力をしていくことで、地域全体を博物館の現場のようにしていくこととしています。このような計画に従って、毎年自己評価を行い、その達成状況を公表していくこととしています。

(上席総務委員 布谷知夫)

■お問い合わせ  
滋賀県立琵琶湖博物館  
〒525-0001  
滋賀県草津市下物町1091  
TEL 077-568-4811(代)  
FAX 077-568-4850  
URL <http://www.ibm.go.jp/>

## レポート

# 第五四回全国博物館大会レポート

## ―転換期における博物館運営の指標づくり―

### 文部科学省生涯学習政策局社会教育課

平成一八年一月一六日(木)及び一七日(金)に第五四回全国博物館大会が、財団法人日本博物館協会の主催、長崎県、長崎県教育委員会、長崎市、長崎県教育委員会、長崎県博物館協会、日本博物館協会九州支部の共催、並びに文部科学省の後援を受け、全国から四〇四名の博物館関係者が参加し、長崎市民会館(長崎県長崎市)にて開催されました。

平成一八年は、「転換期における博物館運営の指標づくり」をテーマとし、市場原理の導入など官から民への大きな流れの中、転換期の変化に対応するため、博物館の運営について客観的に分析し、その能力を高めるために活用できる評価指標の在り方について検討が行われました。

第一日目は、まず全体会として、冒頭に竹内日本博物館協会会長の開会挨拶、文部科学大臣祝辞の後、博物館界に貢献された方等に対する表彰及び優れた実践

報告・研究活動に対して贈られる棚橋賞の授与が行われました。

午後には、イギリス博物館協会のマーク・テイラー理事長による、「イギリス博物館における評価」と題した記念講演が行われました。講演では、できる限り能率的に経済的にそして効果的に目標を達成するという意味で、博物館が誰に対して責任があるのかということについて、具体的な観点を示し、そのニーズに対応する方策について話されました。

大会においてはテーマに関するシンポジウムやパネルディスカッションも行われました。第一日目は、大会テーマについてのシンポジウムが行われました。まず、「博物館の経営・運営の指標(ベンチマーク)づくり事業」におけるこれまでの取組について報告が行われ、実際の博物館事例をもとに評価手法や評価結果を運営改善にどのように活用するかなどの説明が行われました。その後会場と

の質疑応答が行われました。第二日目には、公立部会と私立部会に分れ、「指定管理者制度」と「公益法人改革」の二テーマについて、より具体的な取組の報告を行うパネルディスカッション等が行われました。

公立部会では、長崎県美術館・長崎歴史文化博物館、横浜市歴史博物館についての指定管理者制度導入状況が報告され、現状と問題点、今後の博物館の在り方について議論が交わられました。私立部会では、原美術館、徳川美術館、島田美術館の運営の現状が報告され、公益法人改革に伴う今後の課題等について、議論が交わされ、「民間における博物館活動の一層の充実に向けて」という要望書が決議されました。最後に大会決議がなされ盛会のうちに終了しました。



竹内会長挨拶

月刊

# マナビィ



2 月号予告

## 特集 中央教育審議会 生涯学習分科会 の審議状況(仮)

まなびの新風—あのみち・このまち—

栃木県さくら市

事例クローズアップ

まち・高校が協働した人材育成  
(高知県)

こんにちは、農林水産省

チャレンジ!ファームスクールについて

### ■読者の声■

・12月号の「マナビィ」事例クローズアップに、熊本県水俣市の頭石(かぐめい)地区の「丸丸ごと生活博物館」取組が掲載されていました。過疎地域で、振興の補助金などを投入してもなかなか現状から脱することができなかった地域が、住む人たちが元気になれば、地域が元気になる。そうすれば経済が元気になると、発想・活動を転換したことにより、少ないコストで地域全体が活性化したという事例がとても参考になりました。  
(長野県在住 30歳 男性)

本誌は、生涯学習の総合情報誌として多様な情報を含んだ紙面構成に努めております。読者の皆様に愛される紙面づくりのためには、皆様からの貴重なご意見やご感想が何よりも重要です。本誌へのご意見やご感想、又は本誌に取り上げてもらいたい地域づくりの事例などがあれば、編集部までご連絡いただければと思います。  
(編集部メールアドレス: chiiki@mext.go.jp)

### 編集後記

新年、明けましておめでとうございます。「光陰矢の如し」という言葉がありますが、歳を重ねるにつれて、本当に時の流れが早くなったように感じます。そして、「時の流れ」の重さを再度、感じるとともに、「未来への希望」へと繋げていきたいと思う今日この頃です。

(K・U)

月刊

# マナビィ



1月号

第67号

2007年1月1日印刷

2007年1月1日発行

著作権所有 文部科学省©

発行所 株式会社 ぎょうせい

本社

〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12

本部

〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16

TEL 03-5349-6666 (第1営業部)

URL <http://www.gyosei.co.jp>

印刷所 ぎょうせいデジタル株式会社

定価600円 本体571円 税76円

年間購読料7,200円(税・送料込み)

- ・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
- ・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはもよりの書店にてお願いします。

●本紙掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

●添え付けのハガキでご意見、ご要望等をお寄せください。

広告の問い合わせ・申し込み先

株式会社 ぎょうせい 第1営業部 広告課

電話 03 (5349) 6657 (ダイヤルイン)

Printed in Japan 2007 ISSN 1346-6593

●この刊行物は再生紙を使用しています。